

1 はじめに

本校は全校児童 94 名の小規模校である。また、各学年単学級でクラス替えもないため、人間関係が固定化してしまう傾向にある。そのため、望ましい人間関係の形成及び社会性の育成という点において、たてわり班による異学年集団活動に力を入れている。低学年の頃から高学年に優しくサポートしてもらっていた児童は、高学年になると低学年に対して優しく接することができるようになっている。そのような本校の実践を紹介する。

2 資料（実践事例、写真等）

（１） たてわり班スポーツ大会（たてわり鬼ごっこ・たてわりドッジボール・８の字跳び）

毎年、友遊タイム（ロング昼休み）を活用し、たてわり班によるスポーツ大会を実施している。１学期はたてわり班鬼ごっこ、２学期はたてわり班ドッジボール大会、３学期はたてわり班８の字跳び大会を実施した。６年生を中心に１年生～６年生まで協力して活動することができている。また、各班で役割分担や作戦等を考え、それぞれの班において様々な作戦や工夫が見られた。学期ごとの大会では、高学年が低学年の面倒を見ながら班の仲間を並ばせたり、大なわの跳び方を教えたりしていた。また、本番では力を合わせて競い合ったり、応援したりする姿が見られた。どの大会でも、計画・ＪＲＣ委員会を中心に、みんなに楽しんでもらえるよう、計画・運営し、大会を盛り上げていた。

（２） たてわり班あいさつ運動

毎月２日間、たてわり班による朝のあいさつ運動を行っている。たてわり班で分担して旗を持ったり襷を掛けたりしながら、登校してくる児童へ元気よくあいさつをしている。子ども同士であいさつを行うことで、いつもより大きな声が響き、朝から児童の笑顔が多く見られた。



【たてわり班鬼ごっこ】



【たてわり班８の字跳び大会】



【たてわり班あいさつ運動】

3 成果と課題

- ・高学年が中心となって計画や運営などを行い、主体的に活動することができた。
- ・様々な学年の児童同士が関わることで、学級の中とはちがう役割や活躍の場も生まれ、責任感や自己有用感を味わうことのできる活動となった。
- ・次年度も今年度同様に、計画・ＪＲＣ委員会を中心とした代表委員会において、児童の主体性や創意工夫を生かしながら学校全体を活性化していきたい。